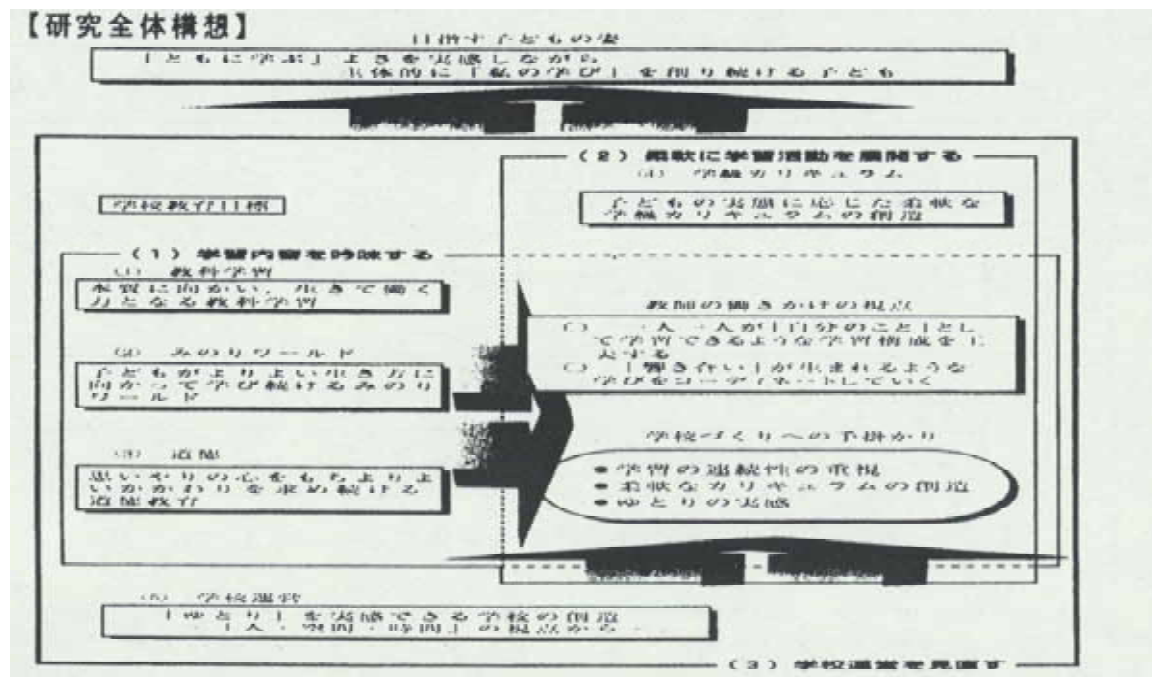


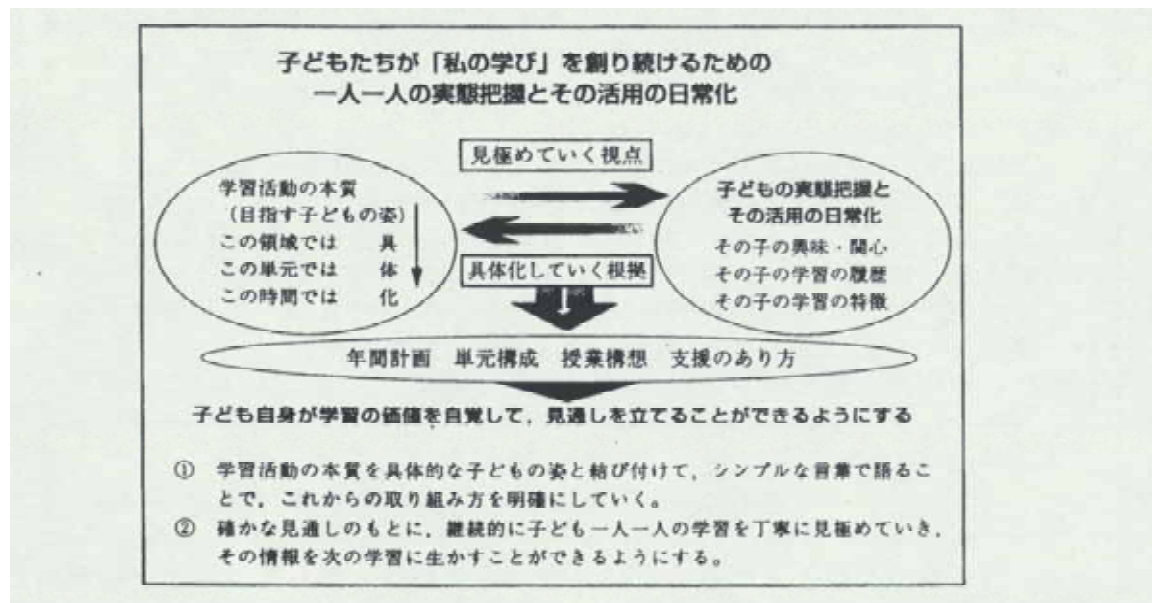
学 校 名	山形大学教育学部附属小学校 〒990-0023 山形市松波二丁目 7 - 2 Tel(023) 641-4444 Fax(023) 641-8594	校 長	畠 山 孝 男
		研究主任	江 口 俊 和
研 究 主 題	「仲間とともに夢と文化を創造する子どもの育成」(8 年次) - 子どもたちが「学ぶ楽しさ」を実感していく学校をめざして -		
本 研 究 で 明 ら か に し た い こ と	私たちは、子どもたちが学校で学ぶよさを、次のようにとらえた。 子どもたちが主体的に「私の学び」を創り続けていくことができること 子どもたちが「ともに学ぶ」よさを実感していくことができること つまり、学校では、「ともに学ぶ」ことによって学びが共有化され、「私の学び」はより価値のあるものへと高められていくのである。その意味で、上記の二点は互いに深く関わり合いながら、どちらも子どもたちの「学ぶ楽しさ」として実感されていくと考えている。 しかし、「学ぶ楽しさ」は、子どもたちが集まって学習すれば自然に実感されていくものではない。教師の働きかけによるところが大きいのである。しかも、日々学びの更新を繰り返しながら少しずつ少しずつ実感されていくことから、息の長い継続的な働きかけが求められる。 友と知恵を出し合いながら主体的に創り続けられる一人一人の学びは、学校生活の中だけに閉じることなく、自分たちの社会生活を創造していくエネルギーになっていくであろう。人との関わり方も自然な形で身につけながら…。私たち教師の働きかけは、子どもたちの「生きる力」を育むことに直結するのである。 そこで、前記の本校の研究テーマを設定し、学校のもつ「小社会」としての役割・機能をこれまで以上に大切にしていきたいと考えた。 本校の研究で、めざす子どもの姿は下記の通りである。 「ともに学ぶ」よさを実感しながら 主体的に「私の学び」を創り続ける子ども 子どもたちがこのような姿に近づいていくために、私たちは子どもの実態に応じた学習活動をどう組織し、実践していくかという視点から、教師の働きかけのポイントを次の二点に整理した。 一人一人が「自分のこと」として取り組むことができるような学習構成を工夫すること 「響き合い」が生まれるような学びをコーディネートしていくこと こうした働きかけは、別々の行うものではない。点としてではなく、線や面として、学校生活の中で繰り返されることが重要なのである。私たちは、「学びの連続性」「柔軟なカリキュラム」「ゆとりの実感」の三点を手がかりにして、新し		

い学校づくりを進めながら，実践・評価・修正を繰り返している。



【本年度の重点】

「響き合い」が生まれるような学びをコーディネートしていく上での新たな視点



研
究
計
画

平成14年7月 本研究がスタート
 同 9月～ 提案授業を通じた校内研究会，ふり回りタイムの学習会
 同 11月15日 秋の研究協議会（教科学習，みのりワールド，道徳）
 平成15年1月～ 学習会（山形大学教育学部：出口毅・加藤崇英先生）
 同 6月12日・13日 平成15年度公開研究会
 （各教科・みのりワールド・道徳・学校運営・保健室経営・講演会）
 その後は，「響き合い」が生まれるような学びをコーディネートしていくための新たな視点から新テーマを考えていく。提案授業を通じた研究会を重ねることにより，より「ほんとう」という根拠の蓄積を図っていく。

11月14日 秋の研究協議会を開催する予定である。